

人間性を守る

ファジナル スチヤディ
経済学部 2年 インドネシア

生まれてからずっと大都市に住んでいる私は「和歌山で一番印象に残っていることは何ですか？」と聞かれたら、それは道端で野菜の売り場をよく見かけることだと答える。季節別の野菜と果物を何個か並べており、支払いはその近くにある金箱に入れ、おつりが要る場合は、その金箱から自分で取ることができる。

田んぼの近くだけでなく、和歌山市内の屋台や、お店などで商品を外に置いていても大丈夫である。これを見ると、商品が盗まれ放題ではないかというぐらい異常な光景である。だがこれは和歌山ならではの魅力だと思う。確かに、店の前に防犯カメラが設置されているが、もし千円ぐらいの商品が盗まれたら警察が犯人を探すにも大変なはずだ。これを見ると、私はいつも「何で？ どうしてそこまで他人を信じているの？」と考える。出身のジャカルタでは、弱肉強食の社会なので、営業時間外になると商品は錠を掛けてとにかく商品を守るべきであり、商品を外側に並べると、絶対にその商品を守る店員がいる。利潤を追求するために、商品は命のようなものであることは当たり前のことである。



無人野菜売り場を見かけた数ヶ月後、私は海南のある文化交流イベントに誘われた。実際は、立派な文化交流ではなく、周囲の農家の英語サークルだった。彼らは元英語教師で定年した後も、英語で会話できるように私と練習していた。当時、その中のあるメンバーは収穫したばかりの野菜を売りたいという話をした。好奇心から、私は、収穫した野菜はどこで売ると聞いた。彼は、道端へ売りに行き、野菜を置き、また週末に売り上げを出すと言い出した。それを聞いた時、私は、ほんの少しの野菜を無人売り場で売るのは利潤になるのかと思った。もし、誰かに置いた野菜を全部盗まれてしまったら、1円たりとももらえないだろう。私とその言葉を伝えた時の彼の答えは今までもまだ覚えている。

その日に収穫した野菜は、利潤のためでなく、人間性を守りたいから道端で売ると答えた。実際に、その答えを聞いたとき、私は全然納得できなかった。私の納得できない顔を見て、彼は言い続けた。我々はずっとお金のため、より余裕のある生活を欲求し、働いている。そして、自分の富を守るために、自分のことしか考えず、他人を信頼できなくなる。確かに、お金があれば、我々の生活水準が向上し、より健康で、より幸せな生活ができる。しかし、その代わりに、他人を犯人のように常に疑っていれば、我々の人間性が崩れてしまうと聞いた。



経済学を学んでいる私は利益や利潤、お金の管理、出来るだけコストを低く、利益を高めることを常に考えている。世の中のことは数字でしか表現できない私はその時やっと納得できた。商品や利益は確かに数字で表しているが、信頼性のような数字で表していないものに価値がないわけではない。我々の社会は一人一人の信頼性からつくられているものである。他人を信じ、より良い生活のために一緒に協力していることにより、我々は現在この素晴らしい世界に生きている。しかし、現在の我々は技術は信頼できるが、人間同士は完全に信頼できなくなっている。確かに、無人の野菜売りに売りに行った農家も、八百屋に売るのに比べたらあまりにも利潤は少ない。だが、人間性を守るため、他人を信頼し、無人売り場で野菜を売っている。非常に素晴らしい行動だと思う。

今の時代では、AI や技術などは想像以上に進んでいる。便利な生活になっているが、人間として段々人間性を忘れてしまう。自分の利潤を追求するために、他人を疑い、自分勝手に動き出す。人間同士の信頼や人間性をうっかり忘れてしまった私たちは、道端にある無人売り場で我々の人間性を思い出せるだろう。

Protecting Humanity

FAJAR SETYADI

Faculty of Economics/Indonesia

People often ask me, “What is the most memorable thing about Wakayama?” My answer is the trust between its people. Whenever I see a roadside vegetable stall that was unattended by staff or cameras, I think this is weird. What if someone took all the vegetables and didn't leave a penny behind? In Indonesia, people always attend their belongings because someone will steal them if you leave them unattended.

My question was answered by one of the retired teachers who becomes a farmer in the Kainan city. According to him, to trust another human being is what it takes to protect our humanity. He said that sometimes money is not everything, what is valuable is humanity and mutual trust that must be maintained by each other. In economics, everything has to be measured by profit and loss and numbers. However, there are many things that can't be measured by numbers alone. I've never thought that, I might have found the meaning of humanity at a roadside vegetable stall in Wakayama.

Mempertahankan Nilai Manusia

FAJAR SETYADI

Fakultas Ekonomi/Indonesia

Ketika saya ditanya “Apa yang paling berkesan dari Wakayama?”, saya menjawab rasa percaya antar penduduknya. Suatu hari, saya melihat kios penjual sayuran pinggir jalan yang tidak diawasi oleh staff maupun kamera. Menurut saya ini aneh, karena bagaimana jika ada orang jahat yang mengambil semua sayuran dan tak meninggalkan uang sepeserpun?

Pertanyaan saya dijawab oleh salah satu pensiunan guru yang menjadi petani di kota Kainan. Menurutnya, kemanusiaan bukanlah sesuatu yang harus diukur dengan angka. Ia mengatakan bahwa terkadang uang bukanlah segalanya, yang berharga adalah kemanusiaan dan rasa saling percaya yang harus dijaga satu sama lain. Selama belajar ilmu ekonomi, terkadang saya lupa bahwa tidak semuanya harus diukur dengan untung rugi dan angka. Saya tidak pernah menyangka kalau saya akan menemukan arti kemanusiaan di kios penjual sayur pinggir jalan di Wakayama.